

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン【学校評価計画書】**

堺市立若松台小学校
校長 吉川 真一

中学校区におけるめざす子ども像	自己を高めようと努力し、自ら学び続ける子
令和5年度 重点目標 若松台学校群として小小と小中の教育活動の連携をすすめ、学校・家庭・地域の協働のもと「新たな学校づくり」をめざす。 1. 「考える子」をめざす「主体的・対話的で深い学び」を追求し、授業スタンダードを踏まえICTを活用して総合的な学力や情報活用能力を向上させる。 2. 「思いやりのある子」をめざす 校内だけでなく、中学校区の児童のつながりを強め、多様な集団づくりの取り組みを行う。さらに国際理解教育を含む豊かな心を育てる教育を展開し人権尊重の精神を涵養する。 3. 「たくましい子」をめざす 食育と眠育を中心に健康教育を充実させ、日々の運動を重視して体力の向上を図る。 4. 学校・家庭・地域との協働をめざす 系統的に地域学習を行い探求的な学びを進め、児童に自分たちの町を大切にすると心と行動力を育成し、学校、家庭、地域の連携をさらに深め強める。	
「確かな学び」の現状 各種調査の結果より、国語科においては漢字を苦手と感じている児童が多く、読書に対する関心も低い。また算数においてはより良い方法はないか新しいアイデアを考えることや工夫してノートをとることにおいては肯定的な児童が多くいるが発表することに対する意識は課題が見られた。学力の二極化も進んでおり、学習に対する意欲も差がみられる。児童用端末に関する意識の調査においても、機器を使用することには好意的だが、その有用性を児童が感じることは至っていない。基礎学力定着に向け学習コンテンツを生かしながら、学び直す機会を確保するとともに、情報活用能力の育成のために、カリキュラムの改善、系統的な指導をおこなっていく。	「豊かな心・健やかな体」の現状 アンケート調査より、7割以上の児童が「特別の教科道徳の授業が好きだ」と回答しているが、「道徳の授業などで考えたことなどを友達と伝え合うこと」に対しては2割の児童が否定的な回答をしている。「考え、議論する道徳」の実現に向けては、意見交流する時間の設定を行うなど、授業の構成などの工夫が必要である。体を動かすことが好きな児童も多く、休み時間には運動場で元気に遊ぶ姿が多くみられる。児童の自尊感情の実態としては2割の児童が否定的に回答している。国際理解教育を推進していくことを軸として、人とつながりを大切に、多様性を認めあい、人権が尊重されていることを実感できるよう、学校全体で人権教育に取り組む。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	向上 学力の基	基礎基本の学力を育成する	●学校での朝学習や自主学習ノートを活用し、家庭での学習習慣の定着と、読書活動(朝の読書、図書の時間)の充実と学校図書館の活性化を図る。	2年以上自主学習ノートの活用 読書活動(朝読と図書貸出冊数)の変化	ノートと貸出冊数・アンケート	年度末	△朝学習、自主学習ノートの活用は定着してきている。委員会の啓発活動などで読書への興味を高めることに努めている。	△自主学習への取組は、昨年比 10%上昇となった。読書啓発は進んでいるが、朝読書を楽しみとしている児童は微増(3%)であり、まだ向上には至っていない。	○自分の好きな本の紹介などの取り組みなど読書活動のいいきっかけとなっているのでは。毎週の読書に取り組んでいることが大切。自主学習においては、振り返る時間を大切に取り組んでほしい。
	総合的な学力向上	主体的・対話的で深い学びを追求し、総合的な学力の向上をめざす	●★総合的な学習の時間を含むさまざまな授業の中で児童の読解力の向上に取り組み、主体的・対話的で深い学びを追求し、自己肯定感と総合的な学力の向上を進め、9年間を見通した指導を行う。 ●★外国語科、算数科等の教科担任制とTT授業を取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びを進める	2年間を見通した教科研修と年3回の研究授業(低・中・高学年)公開授業・学習発表の実施 アンケート肯定率や活用力の比較 自校教員、若松台中、上神谷小教員による授業の実施	学力調査・学校アンケート 実施状況・アンケート	年度末 年度末	○2回研究授業と3回の研修を行い、「読解力の向上」をテーマに実践を進めている。 ○外国語科(若松台中)6年算数科(上小)の兼務による効果的な授業を行っている。	○堺市の教育でめざすものとしている「読解力の向上」に取り組み、学校としてその基盤はできつつある。学校群のモデル実施として専科教員による授業実践は、他校教員と自校教員で進め、効果を上げ、定着し始めている。	○参観日に英語の授業を見ていて、子どもたちが楽しそうに取り組めていたのがよかった。
		ICTを活用した学習を進め、情報活用能力を向上させる	●一人一台の学習者用端末を教科、総合的な学習や家庭学習において活用し、情報活用能力を向上させる。	アンケートの肯定率が80%以上	アンケートテスト等	年度末	○月に1日をICTの日を設定し、児童の活用につながる研修をし、実践している。	○教職員のスキル向上にあいまって児童の活用増加し、ICTが定着を見せている。	○ICTを使った情報共有やプレゼンをなどの実践は今の社会に必要なことでこれからも進めてほしい。
豊かな心・健やかな体	生活習慣の確立と自尊感情の育成	さまざまな体験を通して、人とのつながりや思いを知り、自他ともに大切にする心を育てる	特別の教科道徳の授業を要とし、他の教科等との関連を図りながら道徳教育の充実を図る。 ●いじめ事案の早期発見・早期解決に努め、組織的に対応し、人権教育、特別支援教育、集団づくり、仲良しタイム等の取組を通して、自他を大切にする心情を育てる	道徳の教科書や副読本の効果的な活用と公開授業の実施 年3回の研究授業の実施と人権にかかわるアンケート項目の肯定率が90%以上	アンケート アンケート 児童観察	年度末 年度末	○道徳科の授業を効果的に行う取組を進めている。 ○平素の児童観察やいじめアンケートなどで早期発見、早期解決に努めている。縦割り活動や他校との交流で出会いを創設している。	○オープンスクールや参観授業の際に、保護者にも見てもらう形で道徳の公開授業を実施している。いじめの早期発見解決のために学期に1回アンケートを実施している。人権教育・特別支援教育についての教職員研修を実施するとともに、仲良しタイムの実施についての肯定率89%上昇した。	○なかよしタイムなどでの異学年交流の場面で、高学年は低学年の児童にやさしくしたり、リーダーとしての自覚が芽生え、低学年の児童はやさしくしてもらえ、そういった経験が受け継がれていき、若松台小学校でいいサイクルが生まれている。
		健康・安全に関する認識を高める 体力の向上を図る	●食育・眠育・防災を含む安全教育を通して、健康で安全な生活ができる力を育てる。 学校行事や屋外での遊び等を通して、体を動かすことの楽しさを体感させ、運動好きを育てる。	健康や安全にかかわるアンケート項目の肯定率が80%以上 「運動が好き」アンケート肯定率60%以上	アンケート アンケート調査結果	年度末 年度末	○農家や企業とタイアップした食育の出前授業などを行い、意識向上を図っている。 ○体育授業、仲良しタイムや親子交流などの行事を通して楽しさを体感させている。	○みそ作り、野菜作りなどで出前授業を、田植え稲刈りも交流体験を行った。防災に関して「災害が起きた時にどうすればいいか知っている。96.7%」であった。「運動が好き 85%」と微増している。その中で3小学校で対抗の大縄大会を実施した。	○学校外も含めて、子どもたちしかいない状況の中で災害が起きた時の対応なども子どもたちに伝えるときに、各家庭への啓発も継続してほしい。 ○味増づくりや農家さんとの交流は大変貴重な体験である。
	独自の課題	ちがいを認め合い、互いに助け合う態度を育てる	外国にルーツのある子どもが、生き生きと活動できる学習の場を設定する。 ●児童の発達段階に応じて国際理解教育を推進し、様々な国の文化や人々を理解し尊重する心情を育てる。	ルーツのある子どもの自尊感情が経年比較で向上している 全学年で取組を進めている	実践報告アンケート 実践報告公開授業	年度末 年度末	○日本語指導を進め、学習面での取り組みも進めている。 △ワールドハッキョを本校で実施するなど国際理解教育の取組を進めている。	△日本語指導の教員を配置し、学習を進めている。低学年でのミニワールドやワールドハッキョの会場校となり、他国の文化を体験する機会を設けて、国際理解教育をすすめた。	○大人たちの方が異文化に対して構えてしまっているところがあり、幼小のころからともに育ってきているので子どもたちの方が理解の進んでいる場面がある。学校群をしていく中で異文化への理解も広がってほしい。
		若松台学校群としての取組	●★学校群での取組を進め、カリキュラムマネジメントを充実させ、児童に寄り添う教育活動や働き方改革に伴う行事の選択と集中を行い、効果的な教育活動を実践する。	実施状況とアンケート	取組の検証とアンケート	年度末	○モデル校として、学校群の日を設定して4校で児童・生徒の交流、教職員の連携をさまざまな形で始めている。	○2学期以降、児童の交流、教職員の連携が進み、多くの内容で改善が進んでいる。「他校の友だちと活動するのが楽しい 90%」であり、交流の効果も感じられた。	○若松台中学校を拠点に、児童の交流行事などの取り組みができています。学校群の取り組みの展開の仕方がよかった。それぞれの地域の持ち味を学べてよかった。

校長より(年度末) 若松台学校群の各校として新たな学校づくりに取り組んだ。教育活動としては、他校からの兼務教員を含む高学年を中心として専科指導、小小を中心に各学年での交流行事の実施などを行った。また、学校群の日を設定し、教職員の日常的な連携が進み、ルール・行事などの検討が進んでいる。児童にとっても他校の同学年の児童との交流は、中学進学時の段差解消に役立つものと考えている。また、本校独自に ICT の日を月1回程度設定し、教職員のスキルアップと児童の活用推進を図り、効果が出ている。さらに、児童のこれからに必要とされる力を育むために「読解力の向上」を目標に取り組むとともに、道徳、人権教育、国際理解教育、地域を学習する教育を進めていきたい。来年度が学校群のモデル実施の最終年度となるため、令和7年度の本格実施に備えて取組を進めていく予定である。	学校関係者評価者から(年度末) 学校群の取り組みを中心に様々な取り組みができており、子どもたちひとりひとりがのびのびと育っている。課題もあるだろうが、次年度も子どもたちをしっかりと指導していただきたい。また、地域でも高齢化が進む中ではあるができる限りのことは支援していきたい。
---	---